

## 令和2年度 沼津情報・ビジネス専門学校 学校自己評価・関係者評価 評価報告書

### 1. 教育理念・教育目標 の確認

〈教育理念〉

社会に自立するために必要な人間力と高い専門技術を有する人材を育成し、地域社会に貢献する。

〈教育目標〉

学校教育法に基づき、工業における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業実務、衛生、教育・社会福祉における実務教育による知性高く教養深い有能な職業人や教育者の育成を通して、地域社会の発展に寄与することを目標とする。

### 2. 令和2年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 の確認

- ① 個性豊かな特色ある教育を展開し、学生満足度を上げる
- ② 入学定員（230名）を確保する
- ③ 進路確定率と専門職内定率を高める
- ④ 同窓会の活性化

### 3. 評価項目の達成及び取組状況 の確認 詳細別紙参照

評価方法： 4（適切）→ 3（ほぼ適切）→ 2（やや不適切）→ 1（不適切）

※自己評価の平均は、小数点第2位を四捨五入する。

#### （1）教育理念・目標

評価欄

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4.0
1-2	学校における職業教育の特色が明確に示されているか	4.0
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4.0
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3.8
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4.0
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>4.0</b>

#### 成果と課題

- ①教育理念並びに教育目標は、ホームページ学校概要に明示している。学生便覧に記載してある教育目的については、入学後オリエンテーション時に担任教員より説明している。
- ②各科の職業教育の特色(技術・資格・作品・就職・キャリア教育)は、各媒体で明確に示されている。
- ③中期計画にて学校の将来構想を示している。
- ④理念、教育目標、育成人材像、特色については、オリエンテーションやフレッシュマンセミナーで生徒に周知している。一方、保護者に向けた教育目標等の周知については、5月に開催予定の後援会総会がコロナ禍により中止となり、必ずしも周知できていない。
- ⑤教育課程編成委員会や企業連携を通して業界のニーズを把握し授業に取り入れている。

<u>今後の改善方策</u>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念並びに教育目標を募集イベントの段階から学生・保護者等多くの方々に周知していく。</li> <li>・教育課程編成委員会を通じて、社会ニーズを取り入れた第4次中期計画を検討する。</li> </ul>	
<u>学校関係者 評価コメント</u>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・不安な時代の中では理念や目標をしっかりと示すことが大事だと感じておりますので、今後も多くの方に伝えていただきたいと思います。</li> <li>・よくできています。</li> </ul>	
<b>学校関係者評価平均</b>	<b>4.0</b>

**(2) 教育活動**

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	3.4
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.9
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4.0
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4.0
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3.4
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.9
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3.7
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.8
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.2
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3.4
2-11	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4.0
2-12	目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか	3.4
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>3.7</b>

<u>成果と課題</u>	
<p>①シラバスを作成し、年度当初に学生へ配布、科目の目的・内容・評価方法等説明をしている。</p> <p>②学習時間や到達目標は、学生便覧によって明確になっている。</p> <p>③現状カリキュラムに関してはロードマップ作成により体系的に編成している。</p> <p>④自ら考え行動できる人間の育成を目指しキャリア教育を重視した科目を実施している。 また、教育課程編成委員会で得た意見を授業運営に反映している。</p> <p>⑤産学連携による職業教育では、インターンシップが授業科目として組み込まれているが、昨年度はコロナ禍によって制限されてしまった。</p> <p>⑥前期と後期に学校アンケート、授業アンケートを実施して、学生達の意見を今後の取り組みに活かしている。</p> <p>⑦成績評価の基準は教務規程で定められており、基準としては明確になっているが、その基準を再</p>	

- 考する必要もある。
- ⑧資格の取得については、ロードマップにより体系的に位置づけ、受験に合わせた指導体制のもと授業運営をしている。
  - ⑨専門性の高い教員の確保は充実されてきているが、一部授業でマンパワーの不足が否めない。
  - ⑩教員の資質向上、指導力向上に関しては、各学科で外部研修へ参加している。
  - ⑪教育課程編成委員である業界団体・企業との連携により現行カリキュラムの見直し検討を行い、カリキュラム改正時に役立っている。
  - ⑫習熟度に乏しい学生については、各系毎、学科毎に対応している。習熟度の乏しい学生については、理由が多様化しており、補講や個別指導などその対応の仕方も様々である。

今後の改善方策

- ・教育課程編成委員会等の意見や企業連携により見直しを行い、専門科目だけでなくキャリア教育を更に強化する。
- ・専門性の高い教員を確保するのは年齢も条件に入れると更に困難であるが、質の高い教育を維持するため引き続き努めていく必要がある。
- ・教員の資質向上のために、非常勤講師も含めた全教員の研修参加の実現。
- ・「学力多様化への対応」として、特に低学力層の底上げをはかる全校的な仕組みの構築。

学校関係者 評価コメント

- ・新型コロナへの厳しい対策を迫られてきた中で、これだけよい自己評価をされていることは、職員の皆様が努力され、手応えを感じていた証ではないかと思えます。
- ・コロナ禍の中、GW明けから全科一斉に遠隔授業を始めるなど、教育活動の維持によく尽力されていると思う。
- ・コロナ禍で想定した教育ができなかったとは思いますが、結果としてはやや不足でしたね。
- ・ビジネスマナー、社会常識を徹底的に教え込んでいただきたい。

**学校関係者評価平均** 3.7

**(3) 教育成果**

3-1	就職率の向上が図られているか	3.8
3-2	資格取得率の向上が図られているか	3.2
3-3	退学率の低減が図られているか	3.0
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.3
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>3.3</b>

成果と課題

- ①就職率に関しては、コロナ禍の厳しい状況にも関わらず殆どの学科が就職内定率を向上させることができた。
- ②資格取得率の向上に関しては向上した学科もあるが、目標を達成できていない学科もある。
- ③退学率に関しては、令和元年度の4.7%から令和2年度は5.8%と増加した。
- ④在校生については、コンテストや連携授業を通じて一定の社会評価を頂けているが、卒業生の社会的評価に関しては、積極的な確認をすることはできなかった。

今後の改善方策

- ・就職内定率の更なる向上に加え、専門分野就職率向上に向けて専門分野への興味、関心を高めていく

めの取り組みが必要。

- ・進路変更や学習意欲低下による退学者を減らすため入学前から丁寧な説明を行い、ミスマッチを防ぐ。
- ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握するため、同窓会組織を中心とした卒業生との連携強化を図るための体制を整備する。

学校関係者 評価コメント

- ・コロナ渦中において柔軟に対応され、これだけの就職実績を残されたことは素晴らしいです。これからの卒業生がさらに活躍し、「沼情の卒業生です」と堂々と言ってくれる機会が増えれば、卒業後の成果も把握できていくのではないかと思います。
- ・コロナ禍の厳しい状況において逆に素晴らしい評価であると思います。教育理念、目標はきちんとされています。学生個人が理解できるように導くための教員人材の育成や学生に対しても育成していければ良いですね。
- ・このような状況で就職内定率を上昇させられたことは、成果が見られたと言えるのではないかと。
- ・コロナ禍という理由もあるでしょうが、退学者が多いのはミスマッチもあると思います。
- ・離職率を把握していただきたい。

学校関係者評価平均 **3.5**

**(4) 学生支援**

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.8
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4.0
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3.9
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.7
4-5	保護者と適切に連携しているか	3.7
4-6	卒業生への支援体制はあるか	3.6
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4.0
4-8	新たな求人開拓の努力はしているか	3.9
4-9	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.7
4-10	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.7
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>3.8</b>

成果と課題

- ①学生の進路指導に関しては、就職担当を中心に全教職員で指導に当たった結果、令和2年度は、就職内定率は99.1%、専門分野内定率は78.5%となった。就職相談室があるが、部屋が狭すぎる為、学生が相談するスペースが狭く3密の状態である。
- ②悩んでいる学生・不安に感じている学生に対して、学生支援(分掌)としてオアシスルームを実施している。メンタルヘルスに関しては専属スクールカウンセラーによるカウンセリングを週1回(最大2名)実施しているほか、必要の都度、随時カウンセリングが行われている。
- ③学生の経済的側面に対する支援体制では、日本学生支援機構奨学金と法人独自の学費サポートプランにより整備されている。また、高等教育の修学支援金制度対象校となっている。
- ④学生の健康管理に関しては、校内に「健康診断担当」を置き、健康診断結果を受けて、要精査の必要のある学生に担任教員と協力して、診察、治療等を促している。また、職員室内に保健室があり、ベッドが2つ用意されているが、利用しづらいとの意見がある。

- ⑤成績や出欠席が悪い学生については、担任から保護者に電話連絡を行い、必要に応じて保護者面談を行うことで、学生の休学・退学を防止するよう活動している。
- ⑥卒業生全般への支援体制は十分とは言えない。相談に来校する卒業生については、その都度対応している。
- ⑦高校との連携教育は、姉妹校との高・専一貫教育や高校との連携授業、近隣高校に対して分野ごとの進路講座等により、高校生の職業選択等、進路指導上の支援を行っている。
- ⑧就職担当者が優良企業を始め専門性の高い企業に対して訪問し学科の説明を行っている。また、コロナ禍に対応しオンラインでの就職活動支援を増やしている。
- ⑨コロナの影響で例年よりボランティア活動を縮小せざるを得なかった。
- ⑩社会人を対象とした講座などの教育プログラムは今後の課題である。

今後の改善方策

- ・同窓会組織を中心とした卒業生との連携強化を図るための体制を整備する。
- ・卒業生に対し、SNS等を利用して支援体制を強化したい。
- ・コロナからポストコロナを見据えた就職支援体制の再構築。
- ・社会人に向けた教育プログラムの開発に向けた調査・検討。

学校関係者 評価コメント

- ・不安な社会の中では学費の問題やメンタルケアなども重要かと思しますので今後も継続していただきたいです。
- ・教員人材育成、ともに努力や教育が大事だと思います。
- ・卒業生への支援や活躍の把握など、より積極的にSNSを活用されてはどうか。
- ・カウンセリング週2人は少ないような気がします。
- ・学生サポートプランがあるのは良いと思います。

**学校関係者評価平均** 3.7

**(5) 教育環境**

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4.0
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか。	3.8
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	3.9
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.0
5-5	防災に対する体制は整備されているか	4.0
5-6	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3.7
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>3.7</b>

成果と課題

- ①普通教室はクラス担任、実習室には管理担当を置き、施設設備の状況を常に管理する体制を敷いている。
- ②コロナ感染予防のため、3密回避を条件に学生の利用を展開した。
- ③令和2年度にリプレースを行い、IT実習室のPCレスポンスは上がった。
- ④学生の増加に伴い教室に余裕がないうえ、コロナ禍によるソーシャルディスタンス確保のため、

オンラインと対面授業の併用をせざるを得なかった。

⑤防災への対応は、毎年作成されている消防計画及び防災訓練により、体制整備し災害等の発生時に備えている。また、各部屋の火元責任者については自主検査を行い、チェック表を月末に提出する。

⑥インターンシップでは、実習の事前準備、事後指導を行なっている。研修旅行はコロナの影響によりすべて中止。

今後の改善方策

- ・学生の増加とコロナ対応を見据えた、教室・実習室の整備運営が必要である。
- ・今後、施設設備の経年劣化にともなうメンテナンス

学校関係者 評価コメント

- ・まだ課題はあるかと思いますが、密を避けなければならないという大きな環境の変化の中においては十分な改善がはかられていると感じました。
- ・申し分ないと思います。
- ・コロナの影響が多かったです。
- ・研修旅行は必要でしょうか？

学校関係者評価平均 **3.8**

**(6) 学生の募集と受け入れ**

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	3.9
6-2	募集要項の内容は適切か	4.0
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	3.9
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4.0
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	3.9
学校自己評価 平均		<b>3.9</b>

成果と課題

- ①入学案内・募集要項は、毎年更新され、志願者に必要な情報を公開提供している。
- ②入試内容、納付金等必要な内容は説明している。毎年、適切な内容に更新され掲載している。
- ③志願者への情報は、毎年見直し更新されている学校案内・募集要項ならびにホームページ等で提供されている。
- ④学生募集活動は公正に行われており、適正である。教育成果については、学校説明会、オープンキャンパス、新聞、ホームページ等で資格取得状況、コンテスト入賞の状況、就職の状況などの情報を公表している。
- ⑤学納金は、法人グループ校全体で収支等を勘案し適切に設定している。後援会費を改定。

今後の改善方策

- ・ホームページやSNSを見直し、高校生の見やすいコンテンツで情報をタイムリーに発信する。

学校関係者 評価コメント

- ・幅広い分野があり、各科のバランス確保も難しい中でしっかりと募集活動をされていることが、数年にわたる結果にも表れていると思います。
- ・十分かと思います。
- ・入学者の推移を見ても、「選ばれる学校」になっているのではないかと。

・入学者が増えているのは良いですね。

学校関係者評価平均 4.0

**(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守**

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的に行っているか	3.9
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	3.4
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	4.0
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	3.8
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4.0
7-6	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4.0
7-7	運営組織や意思決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	3.7
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	4.0
7-9	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.8
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.9
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.9
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4.0
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4.0
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4.0
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4.0
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.7
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4.0
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4.0
7-19	自己評価結果を公開しているか	4.0
7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか	4.0
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>3.9</b>

**成果と課題**

学校運営、学校経営に関する諸制度、諸施策は、法人の整備の下、学校としての運用も十分に行ってきており、リスク管理、コンプライアンスの面からも適正に運営がなされていると言える。

各項目の詳細は以下の通り。

- ①教職員の人事制度については、法人で制度化されており、教職員の評価に関しては、目標管理制度が運用されている。
- ②学校間の連携は、所属長会議、校長ミーティング、分科会が中心となり活動している。
- ③非常時の危機管理については、法人全体での危機管理規程に規定されている他、ANPIC システムを使用して安否情報管理が行われている。
- ④学校では消防計画に則り、年に1回、避難経路の確認、防災総合訓練を実施している。
- ⑤学校長より運営方針が示され、学校長の実施計画シートを基本として目的・目標を立てている。
- ⑥理事長の予算編成方針、中期計画に沿った運営方針に基づき事業計画を策定している。
- ⑦組織運営については、学校内では職員会議、運営会議、教務会議が実施されている。

<p>⑧人事、給与等の規程が整備されている。</p> <p>⑨教務については、教務規程に基づき教育計画の策定を実施している。</p> <p>⑩ホームページ、学校案内、SNSに教育活動や成果を掲載し公開している。</p> <p>⑪情報システムに関しては、学務、会計、人事等の基幹システムが法人全体で構築されており、情報セキュリティについては、情報セキュリティ基本方針に基づき管理・運用されている。</p> <p>⑫法人本部のホームページで収支報告が公開されている。現在、財務基盤は安定している。</p> <p>⑬次年度の事業計画を策定し、収支を勘案した予算が編成されており、法人内の予算ヒアリングを経て、理事会・評議員会の承認を得ており妥当である。</p> <p>⑭会計監査については、法人に対して年1回、各所属に対して2年に1回実施している。監事監査については、年2回実施している。</p> <p>⑮法人のホームページに、財務情報については公開している。</p> <p>⑯専修学校設置基準に遵守し適正な運営を行っているが、入学定員の超過がある。</p> <p>⑰個人情報の取り扱いについては、学生便覧に明記されている。また、広報活動に用いられる写真、個人名等については、個別で承諾を取っている。</p> <p>⑱自己評価については、毎年、自己評価委員会により実施されており、学校全体として取り組むべき事項や各科で対応すべき事項などを共有するとともに、重点化を図っている。</p> <p>⑲関係者評価委員会を5月下旬までに実施し、6月中にはホームページへの公開を行っている。</p> <p>⑳学内にハラスメント委員会を設け学生、教職員からのハラスメント投稿BOXを設置し受けとれる仕組みを設け、防止を図っている。</p>
<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学定員超過については、検討し改善を目指す。</li> <li>・学内における分掌や会議体、意思決定機能の再検討。</li> </ul>
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ・組織として運営されていることが理解できました。</li> <li>・問題ありません。よくできています。</li> </ul>

学校関係者評価平均 **3.9**

**(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流**

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.3
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4.0
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	3.9
8-4	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2.9
学校自己評価 平均		<b>3.5</b>
<u>成果と課題</u>		
<p>①令和2年度は、高校ワープロ競技大会、こいのぼりフェスティバル、子育てサロンなどの施設貸し出しやボランティア活動が、コロナの影響で縮小中止を余儀なくされた。</p> <p>②令和元年度より国際ビジネス科を設置。留学生について、担任による生活指導を行った。</p> <p>③学内には留学生担当を配置し制度上の理解に向けて留学生並びに教員に個別の対応をしている。</p>		



④例年実施の本校主催の公開講座や仲見世商店街の地域連携など、コロナの影響で中止となった。

今後の改善方策

- ・コロナ禍で当初予定が大幅に変更された一年だったが、アフターコロナも見据えた新しい地域連携のかたちを模索する必要がある。

学校関係者 評価コメント

- ・新型コロナのこともありますが、地域の活性化のためにもぜひ、新しい形での連携に取り組んでいただきたいです。
- ・朝の交通整理、見えています。
- ・公開講座等が実施できなかったのは外的要因に基づくものであり、評価を下げる要因ではないと思います。アフターコロナを見据え、引き続き模索してほしいと思います。
- ・イベントができなかったのはしょうがないですが、学生の世代交流などがあってもよいかと思います。
- ・コロナの影響で大変だと思えます。

学校関係者評価平均 **3.6**

沼津情報・ビジネス専門学校 学校関係者評価委員会（令和2年度評価） 議事録

日 時	令和3年 5月26日（水） 15時00分 ～ 17時00分		
場 所	沼津情報・ビジネス専門学校 5Fラウンジ	文 責	三上 慎太郎
出 席 者	土井 宣博 株式会社 雅心苑 代表取締役 社長 廣住 和良 株式会社ディスタンス・インターナショナル 代表取締役 加藤 正樹 静岡県立三島長陵高等学校 教諭 大澤 幸男 株式会社KTSオペレーション 沼津リバーサイドホテル 総務人事マネージャ 坂部 眞彦 沼津情報・ビジネス専門学校 校 長 三上 慎太郎 沼津情報・ビジネス専門学校 教務課長 宮城島 進一 沼津情報・ビジネス専門学校 教務課長 （敬称 略）		
欠 席 者 （書面による 意見提出）	高木 田鶴子 公益社団法人 沼津法人会 女性部会部会長 曾根 輝夫 ランアンドケントス株式会社 代表取締役 宇賀神 美代子 医療法人社団 真養会 田沢医院 看護局長 二橋 知愛 社会福祉法人 羊之舎恵愛会 恵愛保育園 園長 （敬称 略）		
議 事			
1. 開会挨拶（学校長） 2. 委員紹介 3. 「学校関係者評価」の位置づけについて（三上） 配布資料にて説明 4. 評価方法及び評価報告書について（三上） ・評価していただく項目及び評価シート記入上の注意 ・今回の評価、意見を含めた上で、最終の評価報告書を作成することの説明 5. 令和元年度学校自己評価についての報告及び質疑（三上） 令和元年度自己評価報告を各項目について根拠となる資料及び関連する資料を提示しながら報告及び説明を行う。 5-1 教育理念・教育目標の確認 5-2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 ・個性豊かな特色ある教育を展開し、学生満足度を上げる → コロナ禍により外部活動が中止となったが、学びを止めない努力を続けることで就職等様々な実績につなげることができた。 ・入学定員（230名）を確保する → 入学定員の推移をもとに入学者状況の報告（314名入学） ・進路確定率と専門職内定率を高める → 令和2年度就職状況表により報告（内定率は99.1%） ・同窓会の活性化 → コロナ禍の影響により活動を自粛			

## 5-3 各評価項目の達成および取り組み状況の自己評価報告（成果と課題、今後の改善方策）と質疑

### （1）教育理念・目標

#### ○成果と課題

- ①教育理念並びに教育目標は、ホームページ学校概要に明示している。学生便覧に記載してある教育目的については、入学後オリエンテーション時に担任教員より説明している。
- ②各科の職業教育の特色(技術・資格・作品・就職・キャリア教育)は、各媒体で明確に示されている。
- ③中期計画にて学校の将来構想を示している。
- ④理念、教育目標、育成人材像、特色については、オリエンテーションやフレッシュマンセミナーで生徒に周知している。一方、保護者に向けた教育目標等の周知については、5月に開催予定の後援会総会がコロナ禍により中止となり、必ずしも周知できていない。
- ⑤教育課程編成委員会や企業連携を通して業界のニーズを把握し授業に取り入れている。

#### ○今後の改善方策

- ・教育理念並びに教育目標を募集イベントの段階から学生・保護者等多くの方々に周知していく。
- ・教育課程編成委員会を通じて、社会ニーズを取り入れた第4次中期計画を検討する。

#### ○評価委員より

- ・不安な時代の中では理念や目標をしっかり示すことが大事だと感じておりますので、今後も多くの方に伝えていただきたいと思います。
- ・よくできています。

### （2）教育活動

#### ○成果と課題

- ①シラバスを作成し、年度当初に学生へ配布、科目の目的・内容・評価方法等説明をしている。
- ②学習時間や到達目標は、学生便覧によって明確になっている。
- ③現状カリキュラムに関してはロードマップ作成により体系的に編成している。
- ④自ら考え行動できる人間の育成を目指しキャリア教育を重視した科目を実施している。また、教育課程編成委員会で得た意見を授業運営に反映している。
- ⑤産学連携による職業教育では、インターンシップが授業科目として組み込まれているが、昨年度はコロナ禍によって制限されてしまった。
- ⑥前期と後期に学校アンケート、授業アンケートを実施して、学生達の意見を今後の取り組みに活かしている。
- ⑦成績評価の基準は教務規程で定められており、基準としては明確になっているが、その基準を再考する必要もある。
- ⑧資格の取得については、ロードマップにより体系的に位置づけ、受験に合わせた指導体制のもと授業運営をしている。
- ⑨専門性の高い教員の確保は充実されてきているが、一部授業でマンパワーの不足が否めない。
- ⑩教員の資質向上、指導力向上に関しては、各学科で外部研修へ参加している。
- ⑪教育課程編成委員である業界団体・企業との連携により現行カリキュラムの見直し検討を行い、カリキュラム改正時に役立っている。
- ⑫習熟度に乏しい学生については、各系毎、学科毎に対応している。習熟度の乏しい学生については、理由が多様化しており、補講や個別指導などその対応の仕方も様々である。

○今後の改善方策

- ・教育課程編成委員会等の意見や企業連携により見直しを行い、専門科目だけでなくキャリア教育を更に強化する。
- ・専門性の高い教員を確保するのは年齢も条件に入れると更に困難であるが、質の高い教育を維持するため引き続き努めていく必要がある。
- ・教員の資質向上のために、非常勤講師も含めた全教員の研修参加の実現。
- ・「学力多様化への対応」として、特に低学力層の底上げをはかる全校的な仕組みの構築。

○評価委員より

- ・新型コロナへの厳しい対策を迫られてきた中で、これだけよい自己評価をされていることは、職員の皆様が努力され、手応えを感じていた証ではないかと思います。
- ・コロナ禍の中、GW明けから全科一斉に遠隔授業を始めるなど、教育活動の維持によく尽力されていると思う。
- ・コロナ禍で想定した教育ができなかったとは思いますが、結果としてはやや不足でしたね。
- ・ビジネスマナー、社会常識を徹底的に教え込んでいただきたい。

(3) 教育成果

○成果と課題

- ①就職率に関しては、コロナ禍の厳しい状況にも関わらず殆どの学科が就職内定率を向上させることができた。
- ②資格取得率の向上に関しては向上した学科もあるが、目標を達成できていない学科もある。
- ③退学率に関しては、令和元年度の4.7%から令和2年度は5.8%と増加した。
- ④在校生については、コンテストや連携授業を通じて一定の社会評価を頂けているが、卒業生の社会的評価に関しては、積極的な確認をすることはできなかった。

○今後の改善方策

- ・就職内定率の更なる向上に加え、専門分野就職率向上に向けて専門分野への興味、関心を高めていくための取り組みが必要。
- ・進路変更や学習意欲低下による退学者を減らすため入学前から丁寧な説明を行い、ミスマッチを防ぐ。
- ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握するため、同窓会組織を中心とした卒業生との連携強化を図るための体制を整備する。

○評価委員より

- ・コロナ渦中において柔軟に対応され、これだけの就職実績を残されたことは素晴らしいです。これからの卒業生がさらに活躍し、「沼情の卒業生です」と堂々としてくれる機会が増えれば、卒業後の成果も把握できていくのではないかと思います。
- ・コロナ禍の厳しい状況において逆に素晴らしい評価であると思います。教育理念、目標はきちんとされています。学生個人が理解できるように導くための教員人材の育成や学生に対しても育成していければ良いですね。
- ・このような状況で就職内定率を上昇させられたことは、成果が見られたと言えるのではないかと。
- ・コロナ禍という理由もあるでしょうが、退学者が多いのはミスマッチもあると思います。
- ・離職率を把握していただきたい。

(4) 学生支援

○成果と課題

- ①学生の進路指導に関しては、就職担当を中心に全教職員で指導に当たった結果、令和2年度は、就職内定率は99.1%、専門分野内定率は78.5%となった。就職相談室があるが、部屋が狭すぎる為、学生が相談するスペースが狭く3密の状態である。

- ②悩んでいる学生・不安に感じている学生に対して、学生支援(分掌)としてオアシスルームを実施している。メンタルヘルスに関しては専属スクールカウンセラーによるカウンセリングを週1回(最大2名)実施しているほか、必要の都度、随時カウンセリングが行われている。
- ③学生の経済的側面に対する支援体制では、日本学生支援機構奨学金と法人独自の学費サポートプランにより整備されている。また、高等教育の修学支援金制度対象校となっている。
- ④学生の健康管理に関しては、校内に「健康診断担当」を置き、健康診断結果を受けて、要精査の必要のある学生に担任教員と協力して、診察、治療等を促している。また、職員室内に保健室があり、ベッドが2つ用意されているが、利用しづらいとの意見がある。
- ⑤成績や出欠席が悪い学生については、担任から保護者に電話連絡を行い、必要に応じて保護者面談を行うことで、学生の休学・退学を防止するよう活動している。
- ⑥卒業生全般への支援体制は十分とは言えない。相談に来校する卒業生については、その都度対応している。
- ⑦高校との連携教育は、姉妹校との高・専一貫教育や高校との連携授業、近隣高校に対して分野ごとの進路講座等により、高校生の職業選択等、進路指導上の支援を行っている。
- ⑧就職担当者が優良企業を始め専門性の高い企業に対して訪問し学科の説明を行っている。また、コロナ禍に対応しオンラインでの就職活動支援を増やしている。
- ⑨コロナの影響で例年よりボランティア活動を縮小せざるを得なかった。
- ⑩社会人を対象とした講座などの教育プログラムは今後の課題である。

#### ○今後の改善方策

- ・同窓会組織を中心とした卒業生との連携強化を図るための体制を整備する。
- ・卒業生に対し、SNS等を利用して支援体制を強化したい。
- ・コロナからポストコロナを見据えた就職支援体制の再構築。
- ・社会人に向けた教育プログラムの開発に向けた調査・検討。

#### ○評価委員より

- ・不安な社会の中では学費の問題やメンタルケアなども重要かと思しますので今後も継続していただきたいです。
- ・教員人材育成、ともに努力や教育が大事だと思います。
- ・卒業生への支援や活躍の把握など、より積極的にSNSを活用されてはどうか。
- ・カウンセリング週2人は少ないような気がします。
- ・学生サポートプランがあるのは良いと思います。

### (5) 教育環境

#### ○成果と課題

- ①普通教室はクラス担任、実習室には管理担当を置き、施設設備の状況を常に管理する体制を敷いている。
- ②コロナ感染予防のため、3密回避を条件に学生の利用を展開した。
- ③令和2年度にリプレイスを行い、IT実習室のPCレスポンスは上がった。
- ④学生の増加に伴い教室に余裕がないうえ、コロナ禍によるソーシャルディスタンス確保のため、オンラインと対面授業の併用をせざるを得なかった。
- ⑤防災への対応は、毎年作成されている消防計画及び防災訓練により、体制整備し災害等の発生時に備えている。また、各部屋の火元責任者については自主検査を行い、チェック表を月末に提出する。
- ⑥インターンシップでは、実習の事前準備、事後指導を行なっている。研修旅行はコロナの影響によりすべて中止。

○今後の改善方策

- ・学生の増加とコロナ対応を見据えた、教室・実習室の整備運営が必要である。
- ・今後、施設設備の経年劣化にともなうメンテナンス

○評価委員より

- ・まだ課題はあるかと思いますが、密を避けなければならないという大きな環境の変化の中においては十分な改善がはかられていると感じました。
- ・申し分ないと思います。
- ・コロナの影響が多かったです。
- ・研修旅行は必要でしょうか？

(6) 学生の募集と受け入れ

○成果と課題

- ①入学案内・募集要項は、毎年更新され、志願者に必要な情報を公開提供している。
- ②入試内容、納付金等必要な内容は説明している。毎年、適切な内容に更新され掲載している。
- ③志願者への情報は、毎年見直し更新されている学校案内・募集要項ならびにホームページ等で提供されている。
- ④学生募集活動は公正に行われており、適正である。教育成果については、学校説明会、オープンキャンパス、新聞、ホームページ等で資格取得状況、コンテスト入賞の状況、就職の状況などの情報を公表している。
- ⑤学納金は、法人グループ校全体で収支等を勘案し適切に設定している。後援会費を改定

○今後の改善方策

- ・ホームページやSNSを見直し、高校生の見やすいコンテンツで情報をタイムリーに発信する。

○評価委員より

- ・幅広い分野があり、各科のバランス確保も難しい中でしっかりと募集活動をされていることが、数年にわたる結果にも表れていると思います。
- ・十分かと思います。
- ・入学者の推移を見ても、「選ばれる学校」になっているのではないか。
- ・入学者が増えているのは良いですね。

(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

○成果と課題

学校運営、学校経営に関する諸制度、諸施策は、法人の整備の下、学校としての運用も十分に行ってきており、リスク管理、コンプライアンスの面からも適正に運営がなされていると言える。各項目の詳細は以下の通り。

- ①教職員の人事制度については、法人で制度化されており、教職員の評価に関しては、目標管理制度が運用されている。
- ②学校間の連携は、所属長会議、校長ミーティング、分科会が中心となり活動している。
- ③非常時の危機管理については、法人全体での危機管理規程に規定されている他、ANPICシステムを使用して安否情報管理が行われている。
- ④学校では消防計画に則り、年に1回、避難経路の確認、防災総合訓練を実施している。
- ⑤学校長より運営方針が示され、学校長の実施計画シートを基本として目的・目標を立てている。
- ⑥理事長の予算編成方針、中期計画に沿った運営方針に基づき事業計画を策定している。
- ⑦組織運営については、学校内では職員会議、運営会議、教務会議が実施されている。

- ⑧人事、給与等の規程が整備されている。
- ⑨教務については、教務規程に基づき教育計画の策定を実施している。
- ⑩ホームページ、学校案内、SNSに教育活動や成果を掲載し公開している。
- ⑪情報システムに関しては、学務、会計、人事等の基幹システムが法人全体で構築されており、情報セキュリティについては、情報セキュリティ基本方針に基づき管理・運用されている。
- ⑫法人本部のホームページで収支報告が公開されている。現在、財務基盤は安定している。
- ⑬次年度の事業計画を策定し、収支を勘案した予算が編成されており、法人内の予算ヒアリングを経て、理事会・評議員会の承認を得ており妥当である。
- ⑭会計監査については、法人に対して年1回、各所属に対して2年に1回実施している。監事監査については、年2回実施している。
- ⑮法人のホームページに、財務情報については公開している。
- ⑯専修学校設置基準に遵守し適正な運営を行っているが、入学定員の超過がある。
- ⑰個人情報の取り扱いについては、学生便覧に明記されている。また、広報活動に用いる写真、個人名等については、個別で承諾を取っている。
- ⑱自己評価については、毎年、自己評価委員会により実施されており、学校全体として取り組むべき事項や各科で対応すべき事項などを共有するとともに、重点化を図っている。
- ⑲関係者評価委員会を5月下旬までに実施し、6月中にはホームページへの公開を行っている
- ⑳学内にハラスメント委員会を設け学生、教職員からのハラスメント投稿BOXを設置し受けとれる仕組みを設け、防止を図っている

○今後の改善方策

- ・入学定員超過については、検討し改善を目指す。
- ・学内における分掌や会議体、意思決定機能の再検討。

○評価委員より

- ・グループ・組織として運営されていることが理解できました。
- ・問題ありません。よくできています。

(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

○成果と課題

- ①令和2年度は、高校ワープロ競技大会、こいのぼりフェスティバル、子育てサロンなどの施設貸し出しやボランティア活動が、コロナの影響で縮小中止を余儀なくされた。
- ②令和元年度より国際ビジネス科を設置。留学生について、担任による生活指導を行った。
- ③学内には留学生担当を配置し制度上の理解に向けて留学生並びに教員に個別の対応をしている。
- ④例年実施の本校主催の公開講座や仲見世商店街の地域連携など、コロナの影響で中止となった。

○今後の改善方策

- ・コロナ禍で当初予定が大幅に変更された一年だったが、アフターコロナも見据えた新しい地域連携のかたちを模索する必要がある。

○評価委員より

- ・新型コロナのこともありますが、地域の活性化のためにもぜひ、新しい形での連携に取り組んでいただきたいです。
- ・朝の交通整理、見ています。
- ・公開講座等が実施できなかったのは外的要因に基づくものであり、評価を下げる要因ではないと思います。アフターコロナを見据え、引き続き模索してほしいと思います。
- ・イベントができなかったのはしょうがないですが、学生の世代交流などがあってもよいかと

思います。

- ・コロナの影響で大変だと思います。

## 6. 意見交換等

- ・コロナウイルス対応について

難しい一年の中で、非常によい成果ではなかったかを感じる。

Q. 実績がプラスに働いた要因についてはどう考えているか

A. 様々な要因は考えられる。

- ・各学科の遠隔授業開始が5月だったが、専門他校ではまだ始められない状況も目立つなかで学びを始めることができた。また通信機器の無償貸し出しなどを状況に応じて行い遠隔授業が実施できるよう組織として努めた。
- ・就職実績として内定率は向上しているが、業界によっては好不調が目立ち専門職・関連職への内定率が一部分野で前年を下回った。県外就職の回避なども一部あった。

感想. コロナ禍において非常によい実績であると感じる。4ではなく3点台の評価もあるが、よく頑張られているのではないか。

Q. 遠隔によりカウンセリングはどうなったのか？

A. 登校時のカウンセリング以外に、オンラインカウンセリングを用意したが、2か月動かし実績0であった。登校時に直接話をしたいという状況であった。（完全休校は4月のみ）

Q. オンラインでの授業はどうだったのか

A. 三密を回避するために登校制限を加えながらも学びを止めないようにするにはどうしたらいいのかから始め、質の向上に移りつつある。今はオンラインと登校の併用に慣れ始めている。マイクロソフト Teams を使った授業管理を行った。学生への取り扱い指導もあったが講師の先生への指導も同様に多くあった。

Q. 今年度も引き続き制限とあるが

A. 密を回避するために座学と実技・実習の性質を考慮した上で遠隔授業を取り込むようにしている。想定比率は登校7割：遠隔3割としているが、時期によっては比重の偏りがあり学科ごとに運営している。

Q. 卒業生に聞くと一部の学校では1年間すべてが遠隔だったというものもいた。登校があった方がいいと思っている。そうした中沼情は Teams で実施している。どのような点がよかったかを教えて欲しい。

A. マイクロソフト Teams は様々なソフトウェアを組み合わせたグループウェアで、クラウドサービスのためいつの間にか更新されている時があった。初期はそうした操作面での混乱はあった。ただ、全学生にOffice365が利用可能とする契約を行うため、手続き等は特になかった。zoomにはzoomの長所、TeamsにはTeamsの長所がある。現在はLive配信であるため、オンデマンド化するための取り組みも必要と感じている。

A. オンデマンドに向いている科目もあることは理解している。数学系科目もその一つ。

学生に理解しなきゃいけないと考えるのであれば、振り返りができるオンデマンドは有効な教育手法となりうると感じている。聞き逃しを防ぐことは難しいが繰り返すことができる。

- ・卒業生とのつながりについて

Q. 同窓会以外のつながり方は考えていますか？

A. 今後としてならば、学科毎の公開講座は考えやすい。学校にきたらまた新しい学びができたなどの取り組みは必要とも考えている。このような状況でもあるため今後の取り組みとして引き続き企画検討、そして実施していきたい。

Q. 卒業生に社会人としての講演とかはどうか？

A. OB/OG講座なども実施している。

以 上